引懸筵

〔蛙抄車輿〕檳榔車

疊　繧繝縁、有引懸筵、

〔輿車圖考六〕牛部車

ひきかけむしろは、まへのかたに一ッ、うしろのかたに一ッあるべし、さなければ乗下の用をなしがたし、ひきかけむしろ、引たてむしろともいふ、車に乗下するに、車のうちより榻のあたりまで垂るゝやうに引出すなり、前板なんどのちりをよくる料なるべし、彼愚昧記云、應安四年五月七日、問答主人下車之時、榻役人前駈、可入轅内、否相尋之、不可然、自轅外可立榻之由答了、而今度前駈、入轅内開輦戸、引出引立筵立榻了、仍有加難之輩等云々、尤可然、主人も前駈も無案内之所致也、下車之時ハ、主人手自、輦戸ノ指金をはづして、引立筵以足踏出也、仍於榻者、自轅外立之者也、これらをみても去るべし、

車簾

〔新撰字鏡巾〕幌并兮反、平、車簾也、婦人乗也、車乃加久比、

〔倭名類聚抄十一車具〕車簾　唐韻云、幌幃、篦廉一音、俗云車廉、車帷也、

〔箋注倭名類聚抄三車具〕廣韻云、幌車幌、又云幃、幌幃、帷也、與此少異、按、玉篇幌車幌也、又車帷也、説文、幃、帷也、孫氏蓋依之、又按、幌幃字並从巾、則知是帷類、恐非車簾、

〔蛙抄車輿〕車簾間事

蘇芳簾　唐車、糸毛輦車、檳榔庇、毛車等用之、其簾、竹ヲフシカネニ濃ク染テ、緋ノ絲ヲ以テ編タル也、赤地ノ錦ノ縁ヲ押ス、七緒也、表縁皆綾、或白、縁七之中、左右之端ト、中央兩所ト付簾、其間三ケ所不付簾、崎有金物、

青簾　網代庇、雨眉、牛部、八葉、網代車等用之、其簾、例ノ翠簾ノ如ク青竹也、常ノ翠簾ハ、緋糸ニテ編タルヲ、此簾ハ依車編糸相替、八葉ハ繰糸、網代車ハ村濃編緒也、藍革何モ遠文ノ縁、裏縁白綾、大臣及大將ハ五緒、大中納